

開設講座名	【選択】 学校現場に多い傷病の理解と応急手当	担当講師	丹 佳子		
講習会場	山口県立大学（北キャンパス） 5号館 E312 教室	会場所在地	山口市桜島 6-2-1		
開設日	2019年8月21日（水）	時間数	6時間	受講定員	40人
募集期間	2019年5月19日～6月2日	履修認定 時期	2019年9月30日まで		
履修認定 対象職種	教諭 栄養教諭	主な 受講対象者	幼稚園、小・中・高等教諭、 特別支援学校教諭、栄養教諭		
受講料等総額	6,000円	うち受講料 以外の経費	0円		

【到達目標】

- 学校で行う応急手当の特性と意義が理解できる。
- 学校現場で遭遇する緊急性の高い傷病の緊急度・重症度判断のための観察の視点が理解できる。
- 学校現場に遭遇する緊急性の高い傷病の手当の方法と根拠が理解できる。
- 食物アレルギーなどによるアナフィラキシーに備えた校内体制づくり、発作時の対応が理解できる。

【講習の概要】

学校現場において子どもがけがをしたり、具合が悪くなったりした時に、教員として子どもの体をどのように観察し、緊急度・重症度判断を行うべきか、判断にもとづいた手当をどのように実施すべきかについて、事例と視聴覚教材を用いて解説する。

1. 課題の共有

受講者の体験から学校で行う応急手当に関する課題を共有する。

2. 教員が行う応急手当の特性と意義

学校現場で教員として行う応急手当の特性と意義を解説する。

3. アナフィラキシー発生時の対応

実際におこった死亡事例に基づいて、学校におけるアナフィラキシー発生時の対応と校内体制づくりについて考える（校内体制づくり、発作時の対応、エピペン演習）。

4. 学校現場で遭遇する緊急性の高い傷病の判断と手当1

熱中症、けいれん、過換気症候群についての判断と手当について、事例を用いて解説する。

5. 学校現場で遭遇する緊急性の高い傷病の判断と手当2

出血が多い傷、頭部打撲、四肢打撲、捻挫についての判断と手当について、事例を用いて解説する。

【評価の方法・評価基準】

評価の方法：筆記試験

合格：

- ・学校で行う応急手当の特性と意義が理解できる。
- ・学校現場で遭遇する緊急性の高い傷病の緊急度・重症度判断のための観察の視点が理解できる。
- ・学校現場に遭遇する緊急性の高い傷病の手当の方法と根拠が理解できる。
- ・食物アレルギーなどによるアナフィラキシーに備えた校内体制づくり、発作時の対応が理解できる

不合格：上記以外

【テキスト・参考資料】

参考文献は以下のとおり（購入は必須ではない）。

- ・加藤 啓一（監修）：応急手当 ミニハンドブック、少年写真新聞社、2014

その他の本は、講習時に紹介します。

【受講者への伝達事項】

- ・応急手当の技術ではなく、手当や受診判断の根拠となる「緊急度・重症度判断」を中心に、事例および視聴覚教材を用いて講義を行います。
- ・「課題の共有」を最初に行いますので、学校における応急手当で困ったこと等がありましたら、その経験を簡単にまとめておいて下さい。